



「続 英語で科学を書こう」

井口道生著

パリティ編集委員編 (大槻義彦責任編集)

丸善株式会社

192頁, 1,339円

解説書

お薦め度

☆☆☆☆★

本書は表題からわかるように、英語で科学を表現したい人のための本である。著者は、現在アメリカアルゴンヌ国立研究所の主任研究員をなさっている井口博士という方で、長年に渡って英語で科学を表現し続けてきた大ベテランである。「続」ということはこの前があるわけだが、これらの本に掲載されている内容は、物理雑誌「パリティ」に1992年4月号から1995年9月号まで連載された42回分をまとめたものである。タイトルからはなんとなくお堅い本だと連想されそうであるが、実際は活字は大きめで挿し絵がたくさん入った、お茶を飲みながら気軽に読める本である。

日常の英会話やラジオやテレビの英会話の番組や英会話教室などが豊富あり、やる気にさえなればいくらでもできる。しかし、科学や法律など、特に厳密な表現が重要になってくる分野では、ちょっとした言い回しの違いや不適切な単語を使うことで自分の言いたいことと正反対の意味にとられてしまうことすらあり得る。そこで必要とされる表現について正しい知識を身につけるためには、たくさん科学の英語の論文を読んだり、理工系の科学英語について書かれた限られた本を読んだり、実際に英語が母国語の方と話しをしたりして経験を積んでいくしかない。本書はこの要求に応える本の1冊であり、サイエンスの分野での著者の豊富な経験を元に、特に科学(物理寄り)の分野で頻繁に使われるような例をいくつも取り上げ、様々なケースについて、それぞれの状況に最も適した単語や言い回しのコツ、またそれらの注意点について解説している。

本書の話しの進め方はランダムで、それぞれの項目は殆どが独立している。従って、目次をみて

興味をもったところから読むことができるし、索引を見て単語、熟語から項目を選択して読むこともできる。更に、参考文献に挙げている本も非常に参考になる。内容の殆どは英語の様々な表現に関連したものであるが、中には英語での発表の仕方や論文の書き方、投稿の仕方、手紙の書き方、更にグラフの書き方や単位の話、数式、記号の読み方に到るまで、広い範囲に渡ってふれている。しかし、まだ若干ミスタイプも含まれているので、読む際には注意されたい。

この本のよいところは、とにかく例文や具体例が多く、場合によっては発音についてもカタカナでわかりやすく説明している点である。また、参考文献がきちんとまとめられていたり、欧文索引、和文索引がきちんと書かれているところも親切で気に入っている。物理雑誌の連載のただの寄せ集めに留まらず、著者が読者にとって使いやすいように様々な工夫をしているためだろう。実際、著者は本の中でも、何かを表現するときは受け手にとってわかりやすくあるべきであると説いている。欲をいえば、続編とその前のものとを統一して、もう少し値段が安くなれば言うことなしなのだが。

私は今年の2月に書き終えた修士論文を学術雑誌に投稿するため、現在英語の論文を執筆中である。私のように初めて英語の論文を書こうとしているあなた。英語による口頭・ポスター発表を控えているあなた。この書評を読んで興味をもったあなた。是非本屋さんでこの本を手にとって、気に入ったら買って読んでみてほしい。きっと役に立つだろう。

新永浩子(茨城大)